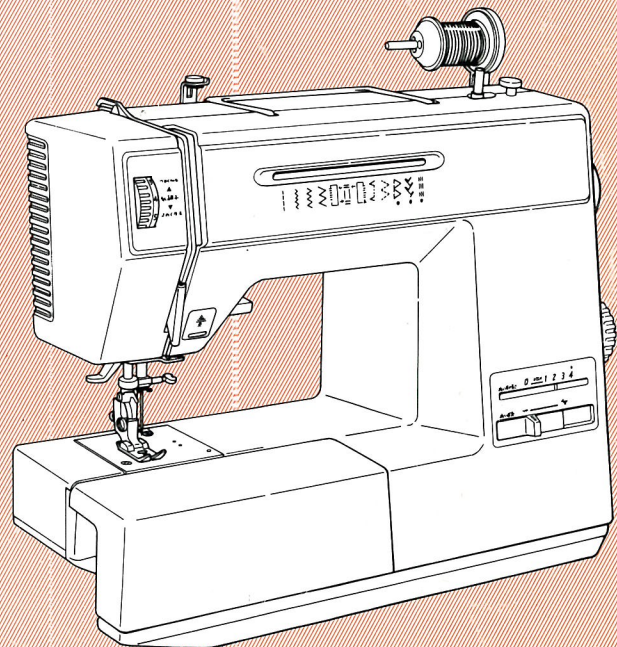


JUKI

電子ミシン
HZL-725

取扱説明書

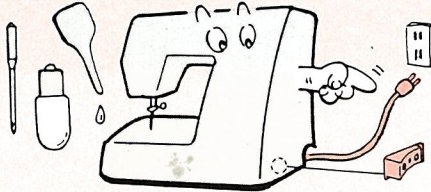


お買い上げいただきまして まことにありがとうございます。

このミシンは 直線ぬいを初めとして ホームソーイングに適した数々の模様ぬいが内蔵されています。正しくミシンをご使用していただくためにどうぞ この「取扱説明書」をよくお読みいただき ホームソーイングのパートナーとして 末長く ご愛用ください。

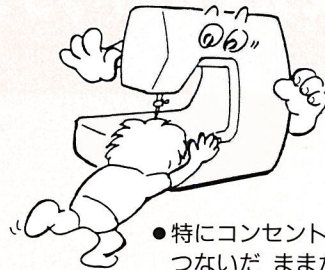
正しくご使用していただくために下記のことは必ずお守りください。

針のとりかえ、ランプの交換、注油などのときは必ず電源を切ってから行ってください。



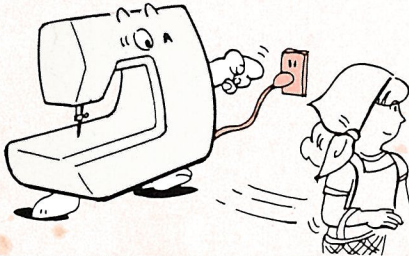
○特にカバー類をはずす場合はコンセントからプラグをぬいてください。

お子様の手の届くところに置かないでください。

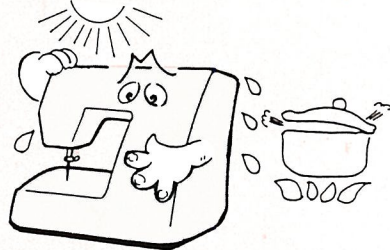


●特にコンセントをつないだままだと危険です。

ご使用にならないときは必ず電源スイッチを切りコンセントからプラグをぬいてください。



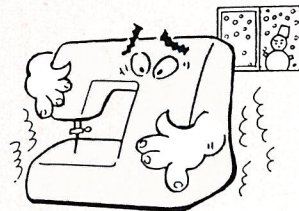
直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



ミシン油以外の油は使わないでください。

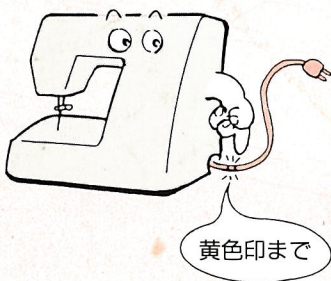


●5°C～40°Cの範囲で お使いください。



●温度がいちじろしく低い場合、正常に動かないことがあります。

コードは黄色印以上引き出さないでください。



シンナーなどの溶剤で ふかないでください。

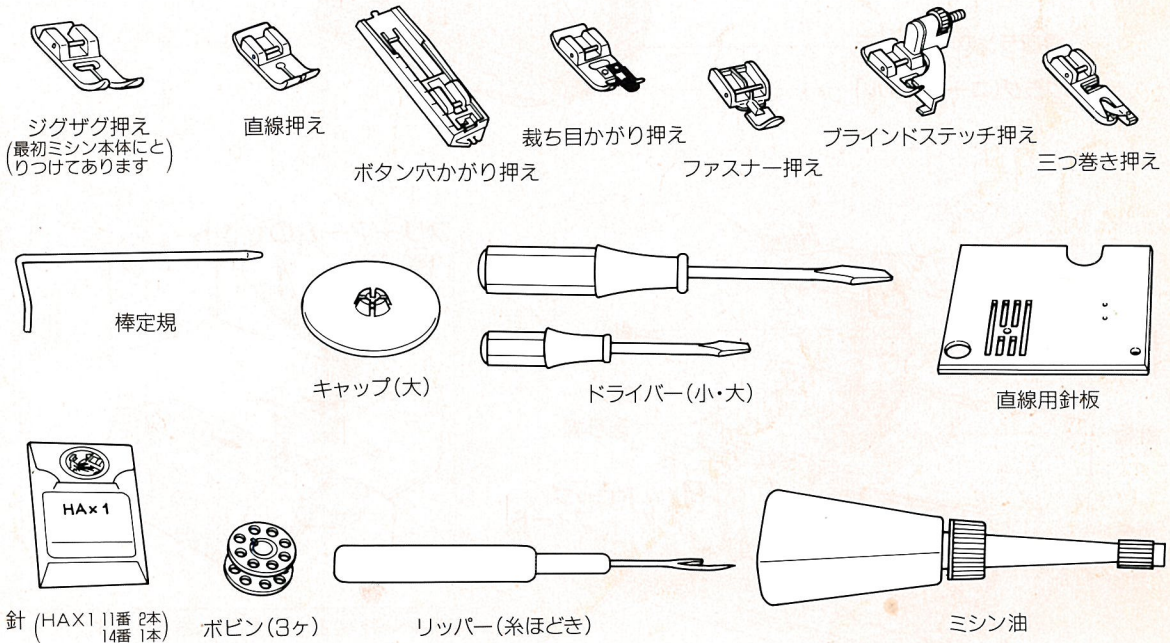


●やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

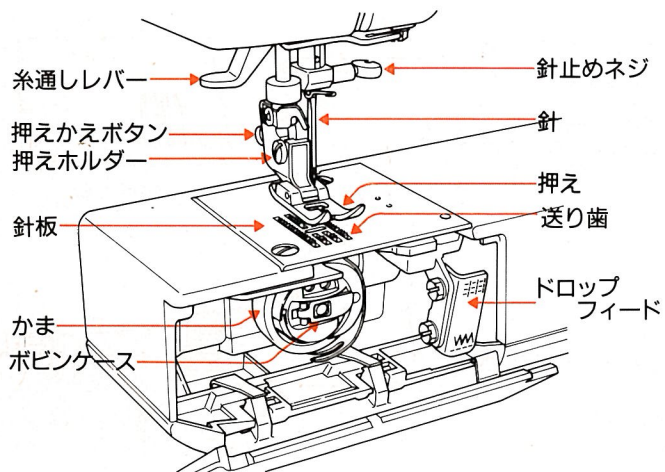
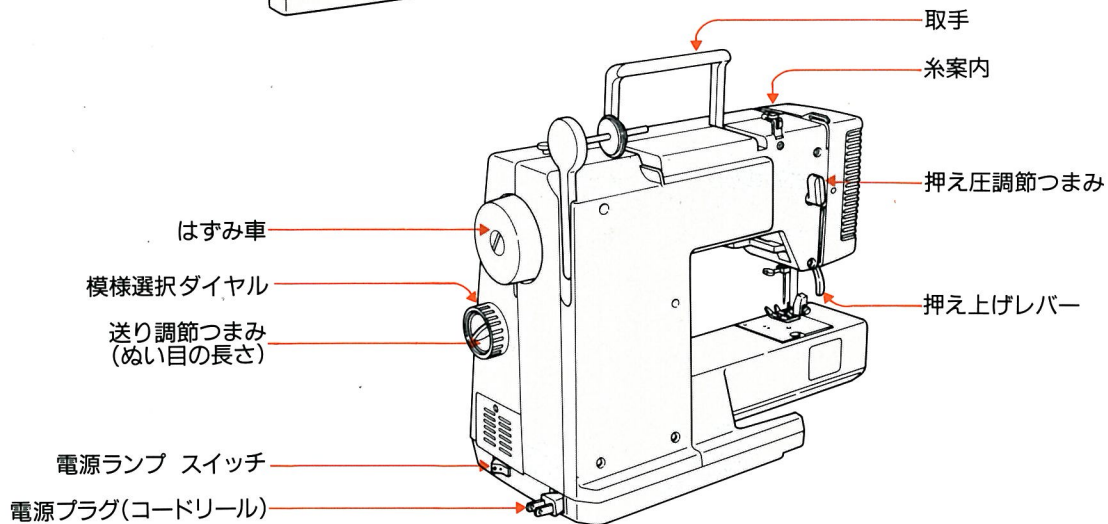
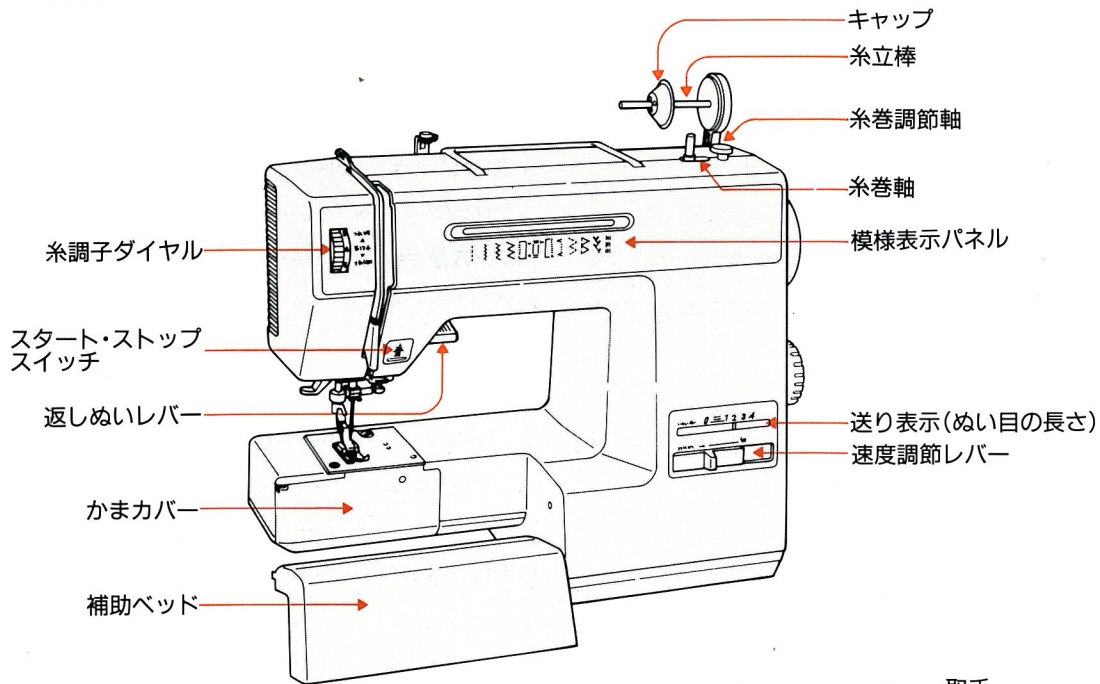
も く じ

付属品	2	直線ぬい	9
各部の名称	3	返しぬい(ほつれ止め)	
フリーアームのセット		ジグザグぬい.....	10
主なはたらき	4	ボタン穴かがりぬい.....	10
下糸の準備	5	裁ち目かがりぬい.....	11
下糸巻きの糸のかけ方		ファスナーつけ.....	11
ボピンをボピンケースに入れるには		伸縮強化ぬい	12
上糸のかけ方	6	まつりぬい.....	12
針自動糸通し		三つ巻きぬい	12
下糸の引きあげ方		突き合わせぬい	12
押えのとりかえ方.....	7	棒定規の使い方	12
針について	7	ミシンの手入れ.....	13
針の交換、針の選び方、調べ方		掃除・注油	
押えと各模様の関係	7	サービスをお申しつけになる前に	14
糸調子の合わせ方	8	コントローラーの動かし方(別売品).....	14
上糸の調節、下糸の調整			
布地・ミシン糸・ミシン針の関係と合わせ方.....	8		

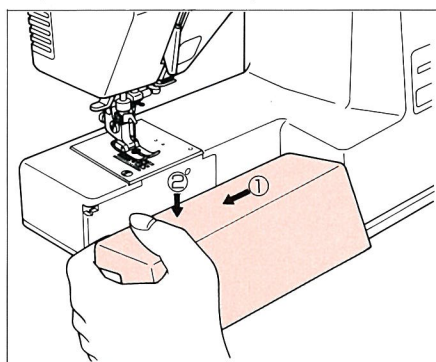
■付属品



■各部の名称



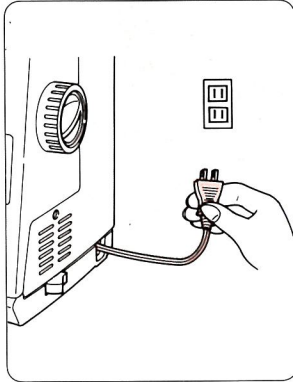
フリーアームのセット



補助ベッドを左へ引き 下へおろします。

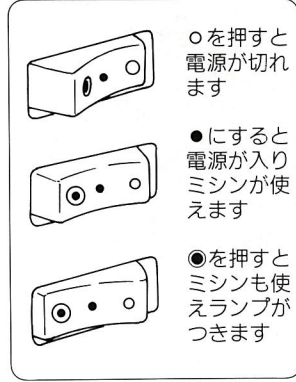
■主な はたらき

電源・コードリール

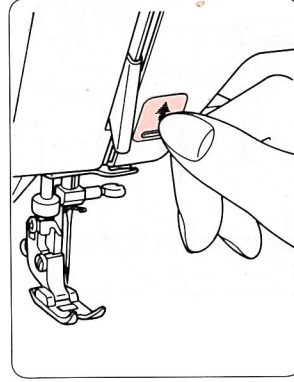


コードを引き出します。
コードを少し引いて ゆるめ
ますと巻きこみます。

電源ランプ スイッチ

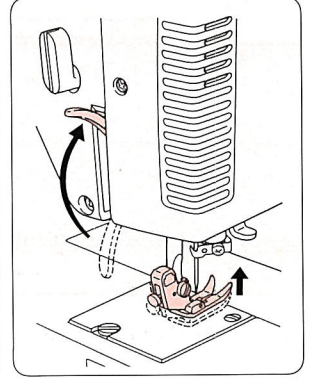


スタート・ストップスイッチ



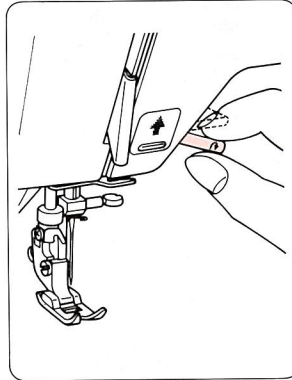
ミシンをスタートさせます。
再度押すとストップします。

押え上げレバー



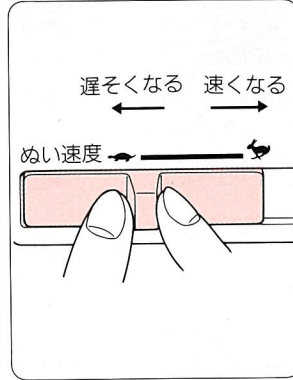
上にあげると押えがあがります。
下へさげると押えはさがります。

返しぬいレバー



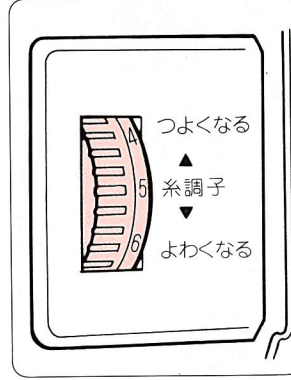
ぬい始め、ぬい終りにレバーを
押すと返しぬいができます。

ぬい速度調節レバー



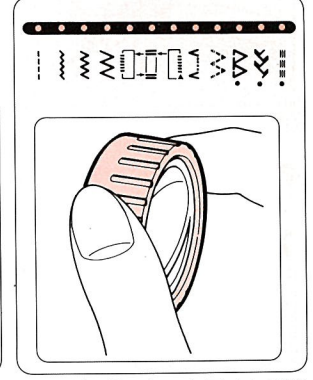
ぬい速度を調節します。

糸調子ダイヤル



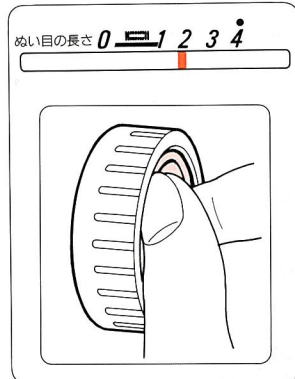
上に回すと上糸調子が強くなり
下に回すと弱くなります。

模様選択ダイヤル



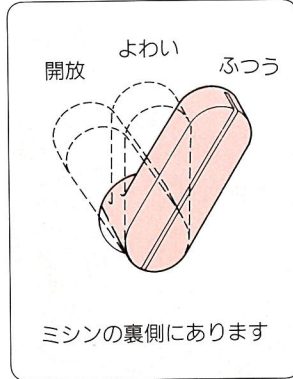
模様選択ダイヤルを回すと模様
表示パネルのLEDにより模様
が選ばれます。

送り調節つまみ



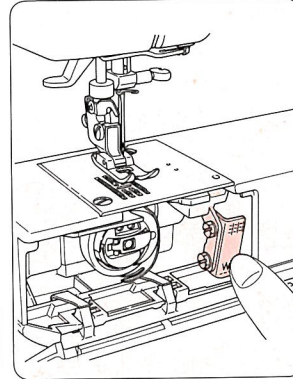
このつまみを回すとぬい目の長
さが調節されます。

押え圧調節つまみ



布地の種類や厚さにより押えの
圧力を調節します。
通常は「ふつう」でぬいます。

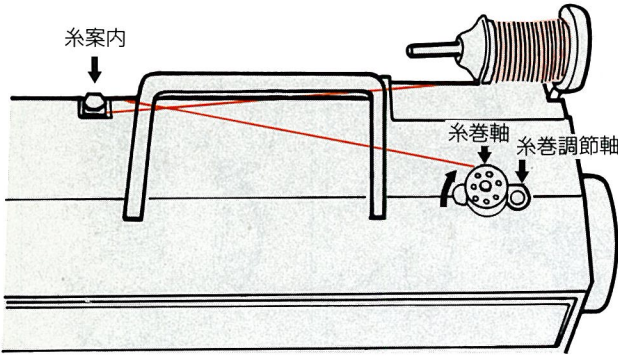
ドロップ フィード



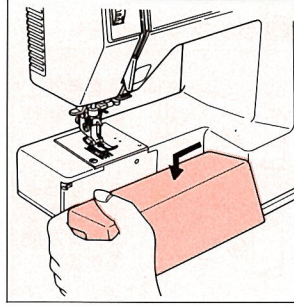
上(≡≡≡)を押すと送り歯が さがり布を
送りません(ししゅうぬい)のときだけ使います
通常は下(≡≡≡)を押して布を送るようにします。

■下糸の準備

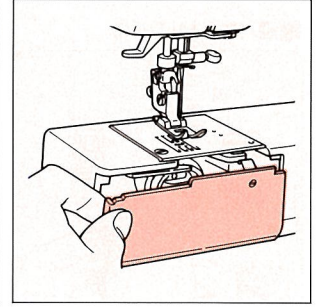
下糸巻きの糸のかけ方



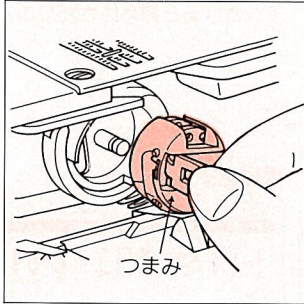
1 フリーアームにします



2 かまカバーを開けます

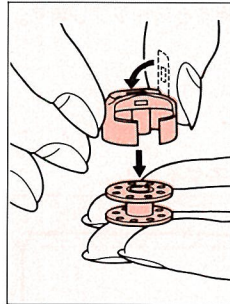


3 ボビンをとり出します



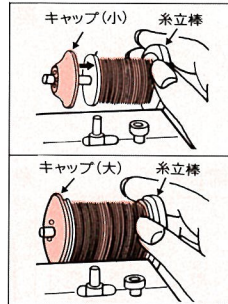
①針が上っていることを確認します。
②つまみを開いてとり出します。

4 ボビンをとり出します



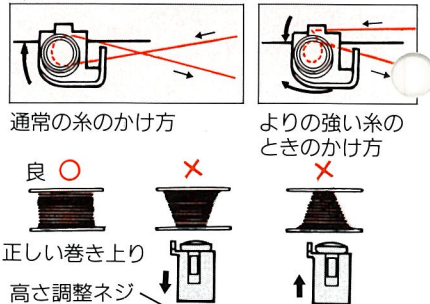
つまみを閉じてボビンをとり出します。

5 糸ゴマをセットします



糸ゴマの外周に応じてキャップの(大)(小)を選んでとりつけます。

6 糸案内にかけます



通常の糸のかけ方

よりの強い糸のときのかけ方

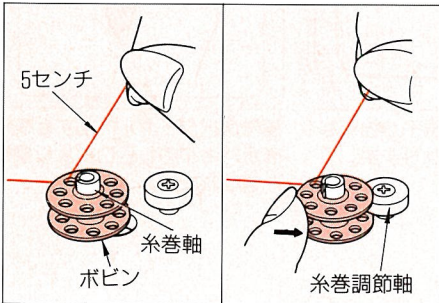
良 ○
正しい巻き上り
高さ調整ネジ

✗
片巻きにならないように糸案内の高さを調整します。

✗
片巻きにならないように糸案内の高さを調整します。

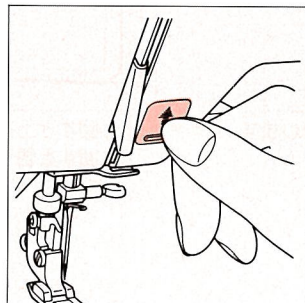
片巻きにならないように糸案内の高さを調整します。

7 ボビンを糸巻軸にセットします



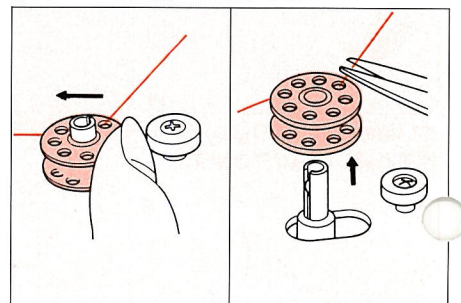
ボビンを糸巻調節軸へ押しつけます。

8 スタート・ストップスイッチを押します



巻き終わったらスタート・ストップスイッチでとめます。

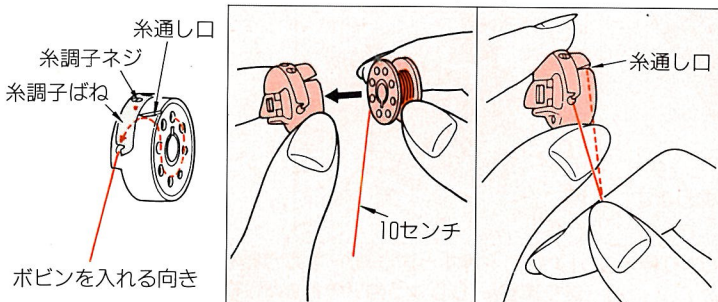
9 ボビンを左側へもどします



余分な糸を切りボビンをとり出します。

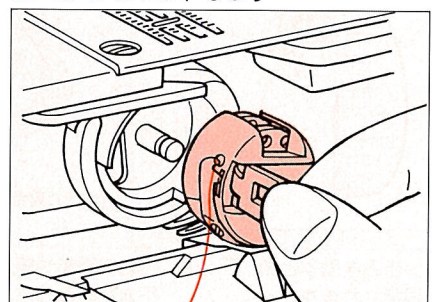
※左側へキチンともどさないとミシンは動きません。

10 ボビンケースに入れます



糸通し口から糸を通します。

11 ミシンにセットします

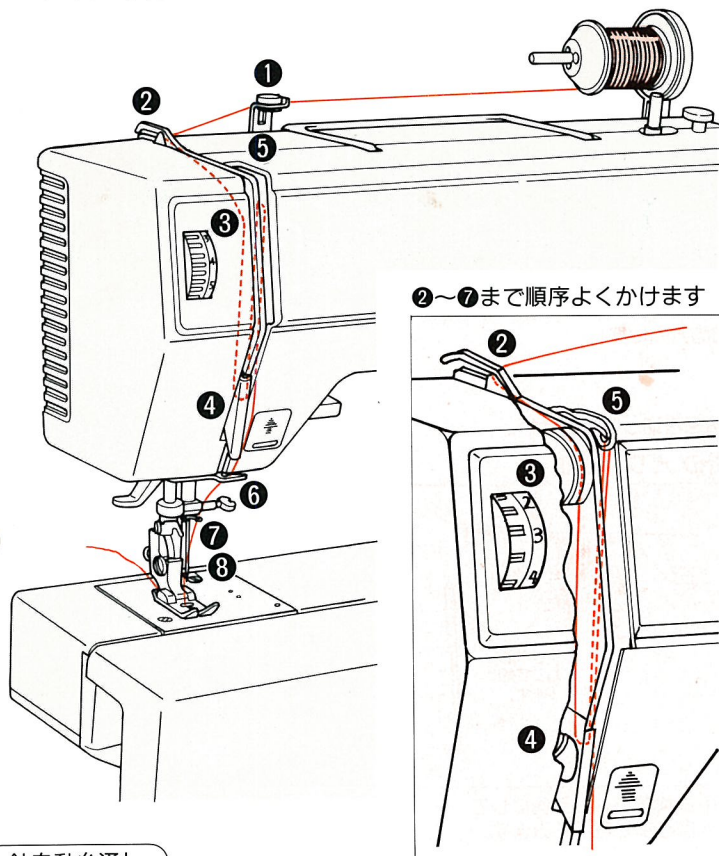


①つまみをいっぱい開いてかまにさし込みます。

②ボビンケースのつまみをキチンと閉じます。

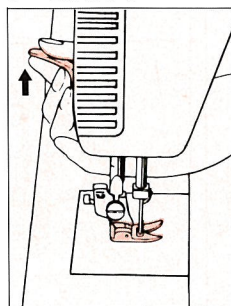
③かまカバーを閉じます。

■上糸のかけ方



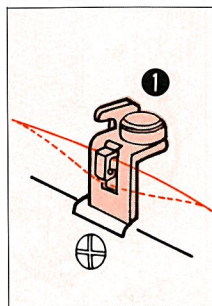
②～⑦まで順序よくかけます

1 最初に押え上げレバーをあげます

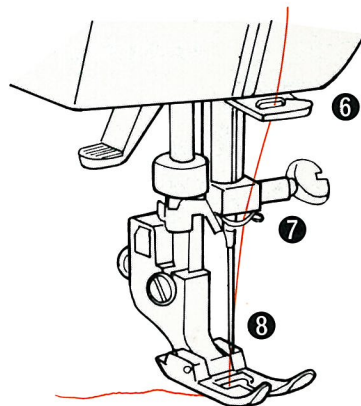


押えをあげると糸調子皿が開きます。

2 糸案内にかけます



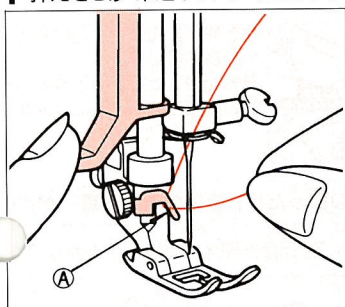
糸案内の裏側に下からかけます。



針自動糸通し

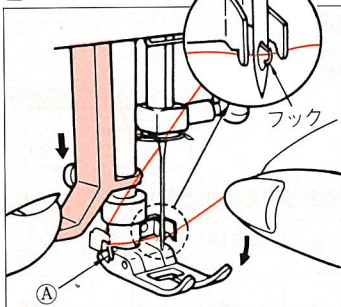
針自動糸通し

1 押えをさげ 糸通しレバーをさげます



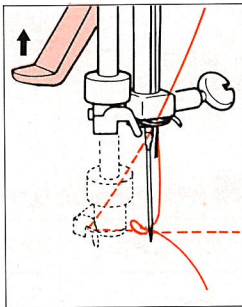
針が一番上にあげ 糸通しレバーを途中(重くなる直前)までさげてAに糸をかけます。

2 フックにかけます



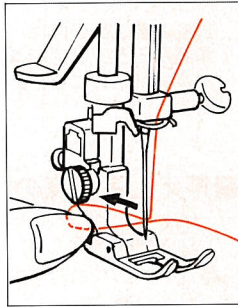
さらに糸通しレバーをさげてフックに糸をかけます。

3 糸通しレバーをあげます



指をはなすとフックに糸をひっかけて針穴に通します。

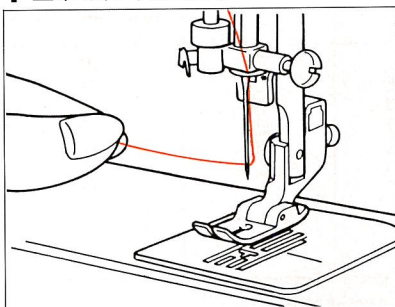
4 糸をひき出します



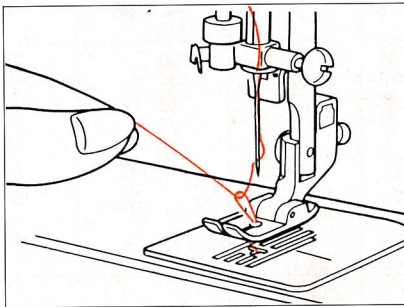
通した糸を針穴から10センチくらい引き出します。

下糸の引きあげ方

1 上糸を軽くもちます

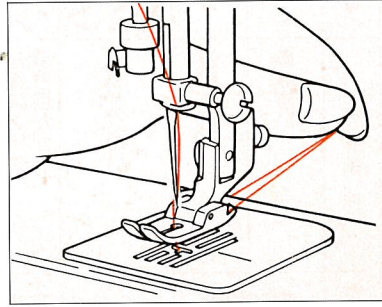


2 はずみ車を手前に回します



針が上下して 下糸を引き出します。

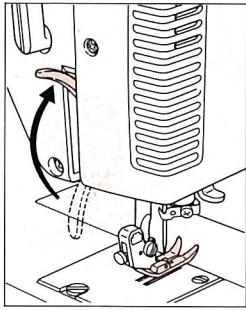
3 上・下糸を10センチ出します



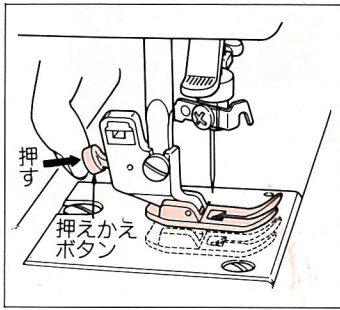
上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

■押えのとりかえ方

1 押えを上げます

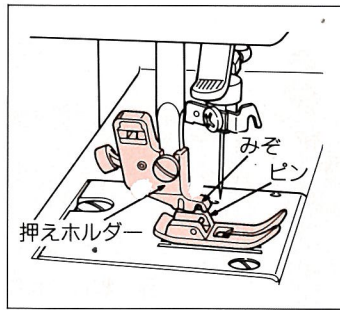


2 押えをはずします

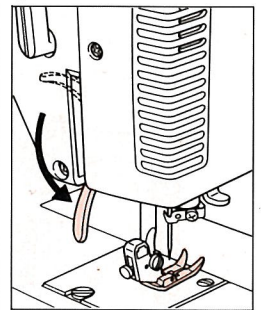


押えかえボタンを矢印の方向に押し
ます。

3 押えのピンと 押えホルダーのみぞを合わせます



4 押えを下げます

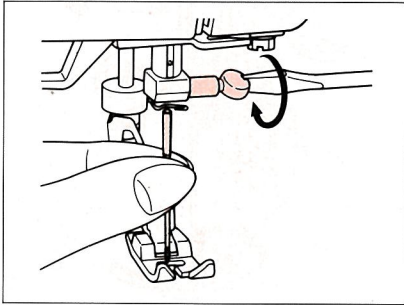


押え上げレバーを下げると
押えはセットされます。

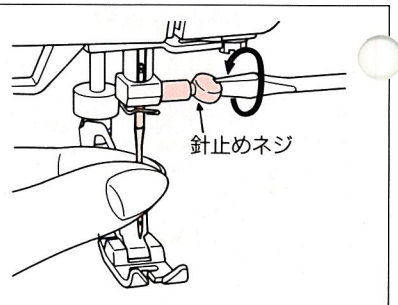
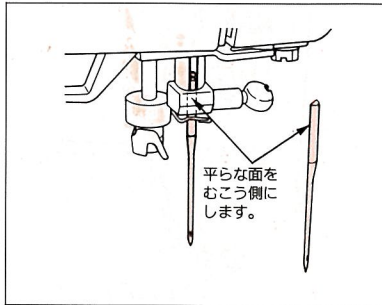
■針について

※針の交換のときは 必ず電源を切ってください。

1 針の はずし方



2 針の とりつけ方

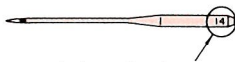


針を最上部にあげ針止めネジをゆるめます。針の平らな面をむこう側にして
上方へ当たるまで差しこみます。

ドライバーで針止めネジをかたくしめます。

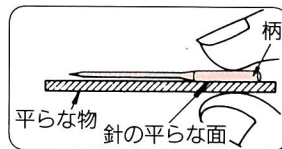
●針の選び方

針をお買求めの際は
家庭用ミシン針のHA×1 または
HA×1KN(ニット針)を指定します。



太さの番号表示
数字が大きくなると
針が太くなります。

●針の調べ方



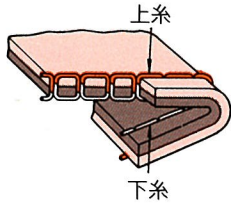
すき間が針先まで平均に見える
のが良い針です。
針先が曲ったり、つぶれている
ものは使わないようにします。

■押えと各模様の関係 (押えや針板のとりつけをまちがえますと針がぶつかり折れたり曲ったりしますのでご注意ください)

押え	直線押え	ジグザグ押え		ファスナー押え	裁ち目かがり押え	ブラインドステッチ押え	三つ巻き押え	ボタン穴かがり押え
模様	— — — 	 	 	— — —			— — — 	
主な用途	直線ぬい 伸縮強化ぬい	ジグザグぬい	裁ち目かがり 三点ジグザグ	パッチワーク ファスナーつけ	裁ち目かがり (オーバーロック)	ブラインドステッチ (まつりぬい)	三つ巻きぬい	ボタン穴かがり
針板	直線用針板	ジグザグ用針板		直線用針板	ジグザグ用針板			

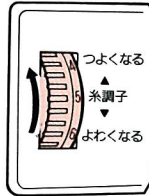
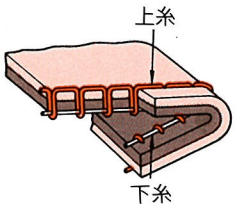
■糸調子の合わせ方

○ 正しい糸調子



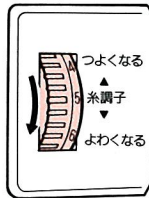
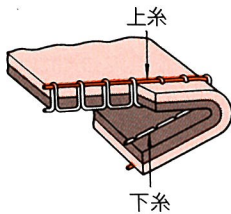
上糸と下糸のからみが布の中心にくるのが正しい糸調子です。

✕ 上糸の調子が弱いとき



目盛の数字を大きくします。

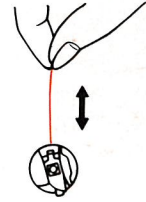
✕ 上糸の調子が強いとき



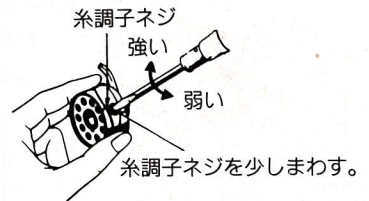
目盛の数字を小さくします。

● 上糸調子だけで調整できない場合 下糸の調整をします

- ボビンケースに糸を巻いたボビンを入れて糸の端を持ち軽くふり少しずつボビンケースが落ちるのを目安とします。



- ボビンケースの糸調子ネジを右へ回すと下糸調子は強くなり左へ回すと弱くなります。



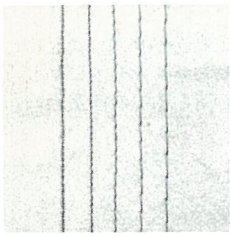
■布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方

	布 地	ミ シ ン 糸	ミシン針	押えの圧力	ぬい目の長さ		糸調子の目安
					直線ぬい	ジグザグぬい	
				押え調節つまみ 	送り表示 		糸調子ダイヤル
薄地ぬい 	ローン	絹ミシン糸 80~100番	(9番)	よわい 開放	1~3	1~4	2~4
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番	ふつう 			4~6
	トリコット	化繊ミシン糸 60~100番	ニット針 11番	よわい 開放	1.5~3	0.5~4	
	ウール・化セン布	絹ミシン糸 80番 化繊ミシン糸 60~100番	11番				ふつう
普通地ぬい 	普通木綿・化セン布	綿 糸 50~80番 化繊ミシン糸 50~60番	11~14番	よわい 開放	2~4	0.5~4	5~7
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番	よわい 開放			
	一般ウール・化セン服地		11~14番				
厚地ぬい 	デニム	綿 糸 30~50番 化繊ミシン糸 30~50番	14~16番	よわい 開放	2~4	0.5~4	5~7
	ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11~14番	よわい 開放			
	コート地	絹ミシン糸 50番	11~14番				

※ニット針(HA x 1KN)は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

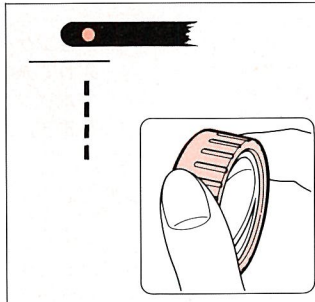
※直線用針板は直線ぬいだけに ご使用ください。

■直線ぬい



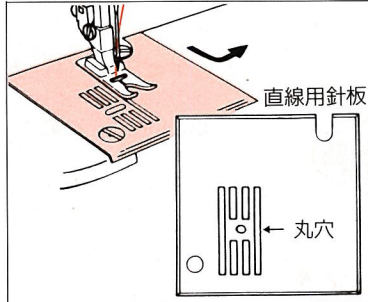
直線ぬいは ぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。

1 直線模様を選びます



模様選択ダイヤルを回して選びます。

2 直線用針板をとりつけます

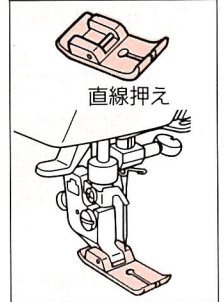


針板の取りかえ方

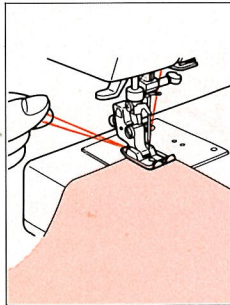
(1) 押えを上げ 針を最上点にあげます。

(2) かまカバーを開け針板の手前を上げて手前に引くとはずれます。

3 直線押えをとりつけます



4 布地を入れ 押えをさげます



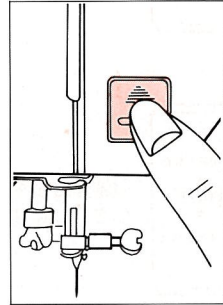
布地を押えの下におきぬい始める位置に針を落とします。上下糸をそろえて押えをさげます。

5 ぬい目の長さを決めます



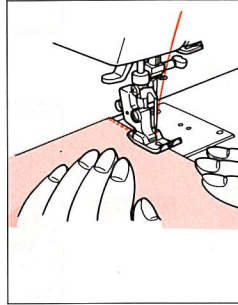
送り調節つまみを回します。

6 スタートさせます



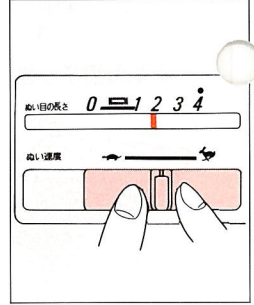
スタート・ストップスイッチを押します。

7 布地に軽く手をそえます



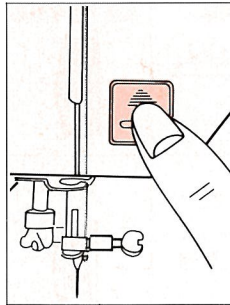
ぬっている間は布地をむりに引っぱらないようにします。

8 ぬい速度を調節します



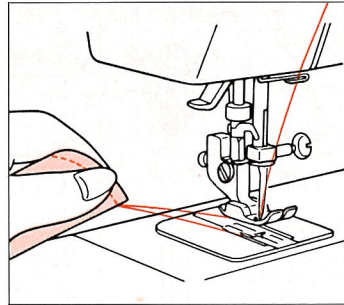
右にするとはやくなり 左にするとおそくなります。

9 ストップさせます



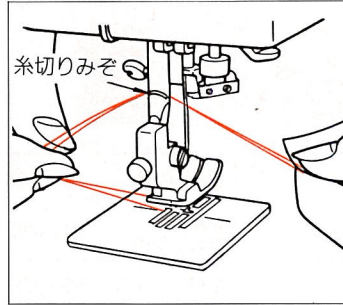
スタート・ストップスイッチを押します。

10 押えをあげて布地をとり出します



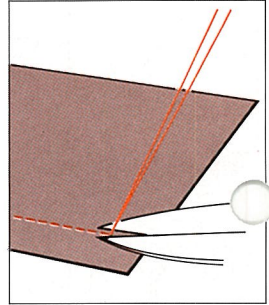
針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。

11 糸を切ります



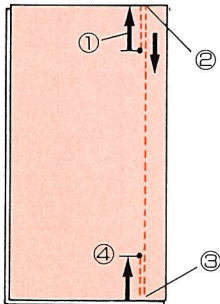
上・下糸をそろえて10センチくらい引き出し押えの裏側の糸切りみぞで糸を切ります。

12 布地の裏で糸を結びます

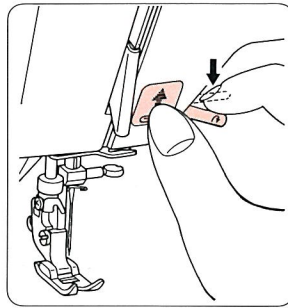


布地の裏側に上糸を引き出し 上糸と下糸を結び 結び目のさきで糸を切ります。

■返しぬい (ほつれ止め)

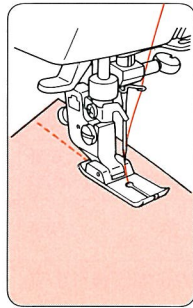


スタート・ストップスイッチと ①返しぬいレバーを同時に押します



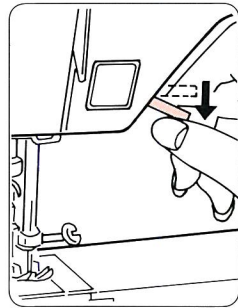
スタート・ストップ スイッチの指はすぐにはなします。返しぬいする長さまで返しぬいレバーを押します。

指をはなすと ②直線ぬいをします

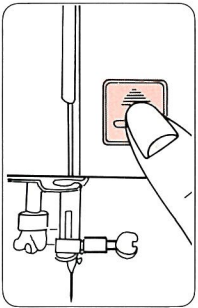


返しぬいレバーから指をはなすと直線ぬいになります。

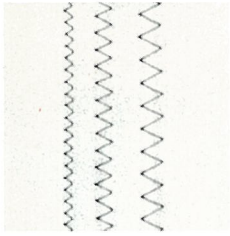
③返しぬいをします



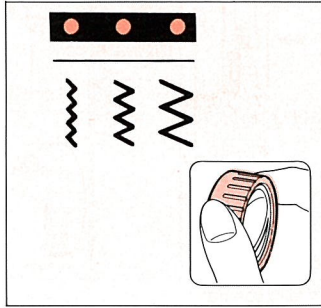
④ストップさせます



■ジグザグぬい

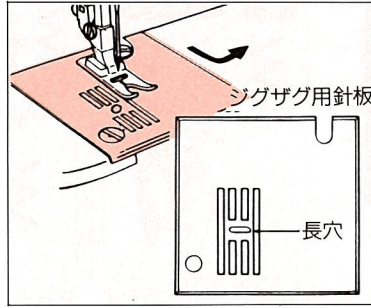


1 ジグザグ模様を選びます



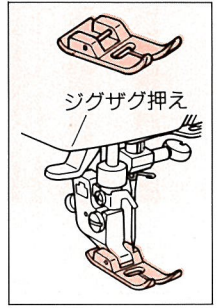
3種類のうち お好みの振り幅模様を選びます。

2 ジグザグ用針板をとりつけます



直線ぬい以外は、すべてジグザグ用針板を使います。

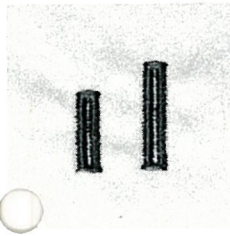
3 ジグザグ押えをとりつけます



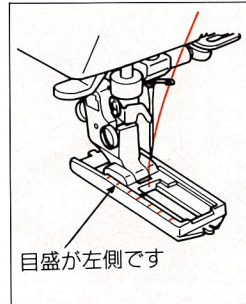
●ジグザグの振り幅とぬい目の長さの関係

ジグザグ模様			
振り幅	小 1.7	中 3.4	大 5
ぬい目の長さ (変化例)			

■ボタン穴かがり

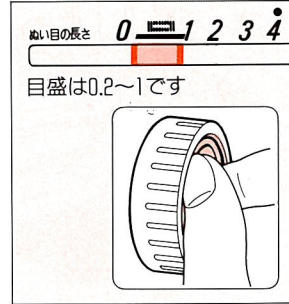


1 ボタン穴かがり押えをとりつけます



目盛が左側です

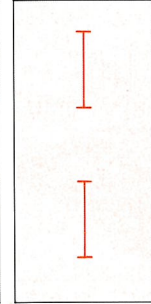
2 ぬい目の長さを合わせます



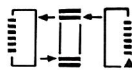
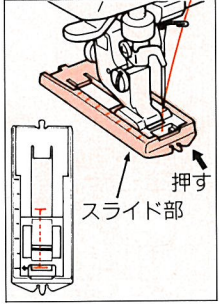
ぬい目の長さ 0 1 2 3 4

目盛は0.2~1です

3 ボタン径を測り布地に印をつけます



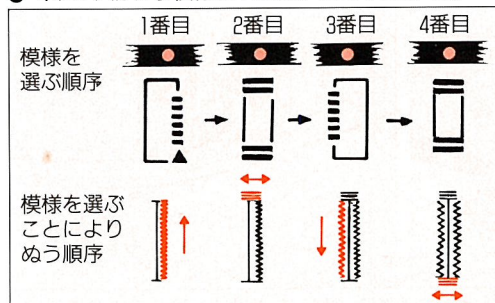
4 スライド部を押して布地の印に合わせます



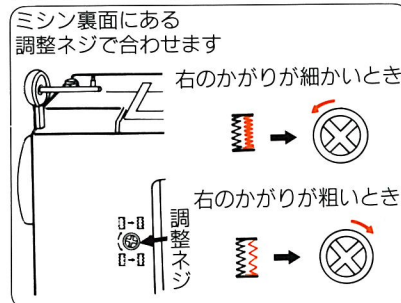
1番目を選ぶ模様

※ボタン穴かがりの模様は模様表示パネルの右側から選びます。

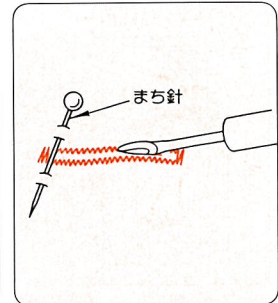
5 ボタン穴かがり模様を下記順序で選んでぬいます



ボタン穴かがりの左右のぬい目が合わないときの調整方法

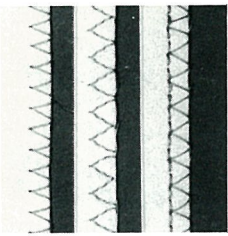


ぬい終わったらリッパーで穴をあけます

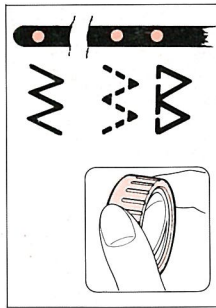


切りすぎないようにまち針を使うと失敗しません。

■裁ち目かがり

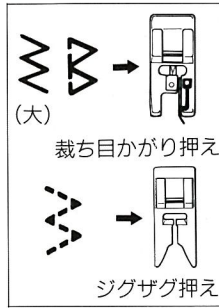


1 模様を選びます



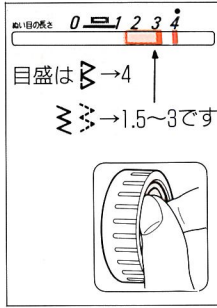
3種類のうち お好みの模様を選びます。

2 押えをかえます

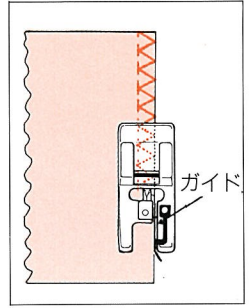


※三点ジグザグぬいは必ずジグザグ押えをお使いください。

3 ぬい目の長さを決めます



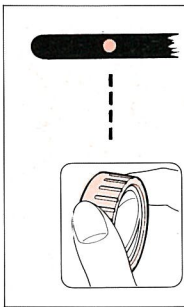
4 裁ち目かがり押えを使う場合



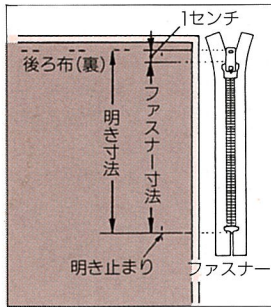
布端をガイドにあててぬいます。

■ファスナーつけ

直線模様を選びます

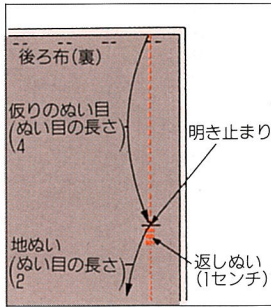


ファスナー明きの寸法をたしかめます



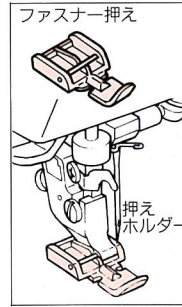
明き止まりはファスナー寸法に1センチ プラスした寸法です。

直線押えを使い 仮りのぬいと地ぬいをします

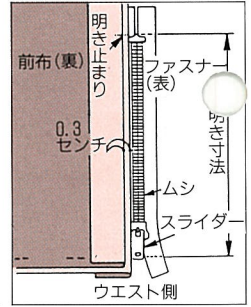


布地を中表に合わせ布端より明き止まりまでぬい目の長さ「4」でぬい、明き止まりからぬい目「2」で1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。

ファスナー押えをセットします

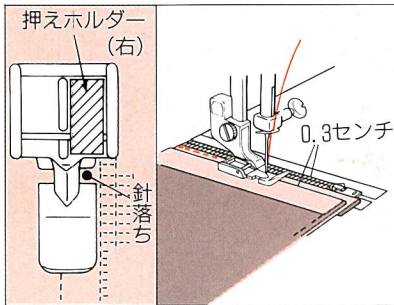


ぬい代を割ります



後ろ布のぬい代を0.3センチ出してアイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

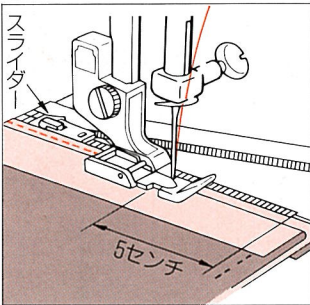
ファスナーの左側を明き止まりからぬいます



ファスナー押えの右側にセットします。

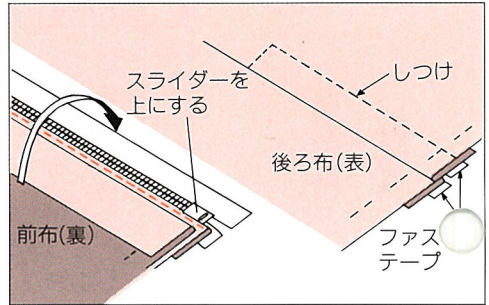
押えの端をムシのきわにあて後ろ脇にファスナーの片方をつけ明き止まりからぬいます。

7 スライダーをさげます



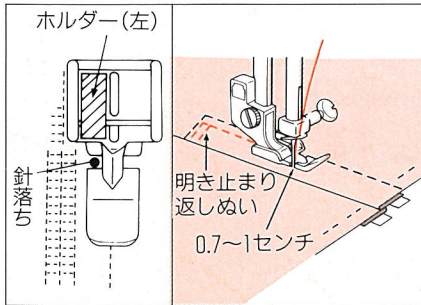
ファスナーの端から5センチ位手前でミシンを止め、押えをあげてスライダーを押えの向こう側にさげ、押えをおろして端までぬい止めます。

8 前布をかえします



後ろ脇がぬい終わったら、スライダーを引き上げて、つまみの金具を上へ倒し、前布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布とファスナーテープをしつけで止めます。

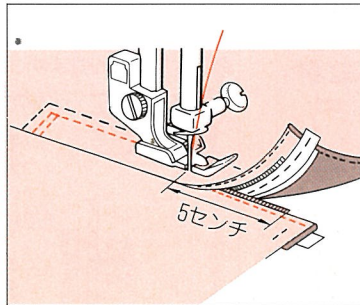
9 ファスナーの右側をぬいます



ファスナー押えの左側にセットします。

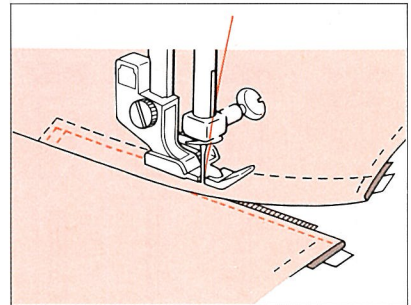
前脇の明き止まりを返しぬいして押えの端をスライダーのきわにあて0.7~1センチのミシンをかけます。

10 仮りのぬい目をほどきます



ファスナーの上側を5センチぐらい残したところで図3でぬった仮りのぬい目をほどきます。

11 スライダーをさげてぬいます



スライダーをさげて、残りの部分をぬいます。

■伸縮強化ぬい (ストレッチステッチ)

伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がはっきりします。

ぬい目の長さを
1 模様を選びます 2 押えをかえます 3 決めます

ジグザグ押え

目盛は4にします

■使用例

- 袖つけ
後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところに使います。
- よく使用する
ポケットつけ
- 袋ものにとってつけ

後ろ身頃
脇
強化ぬい

■まつりぬい (ブラインドステッチ)

裁ち目かがりをして

1 布地を折ります 2 模様を選びます 3 押えをかえます 4 押えのガイドにあててぬいます 5 布地をかえます

1 しつけをします。できあがり線
1センチ
しつけ

2 しつけより折ります。0.5~0.6センチ

3 できあがり線
下側へ折ります。

裁ち目かがり
布(裏)

ブラインドステッチ押え

ガイド

布(裏)

布(表)

できあがり線

ぬい終わりましたら 布地を折りかえます。

●ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

●折り山にぬい目がかからない場合

ガイド

ネジ

ネジを手前に回すとガイドが右へずれます。

●折り山にぬい目がかかりすぎた場合

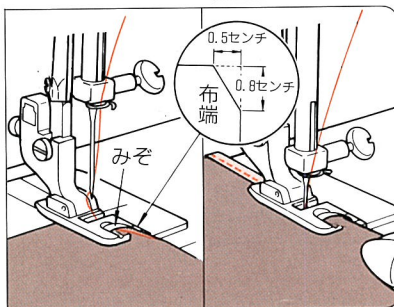
ガイド

ネジ

ネジを向こう側に回すとガイドは左へずれます。

■三つ巻きぬい

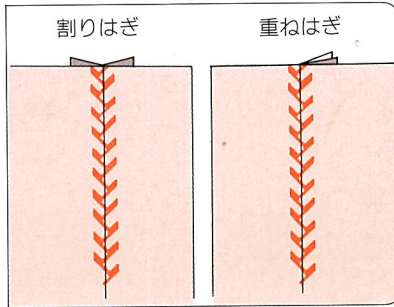
選ぶ模様 (小)



布地を巻きこみやすくするために角を切り押えのうず状のみぞの中に入れます。押えをさげて指先で適量の布地を入れるようにしてぬいます。

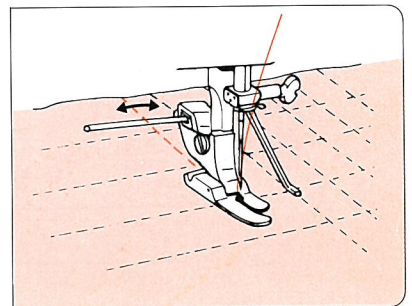
■突き合わせぬい (パッチワーク)

選ぶ模様



2枚の布地を地ぬいした後、両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

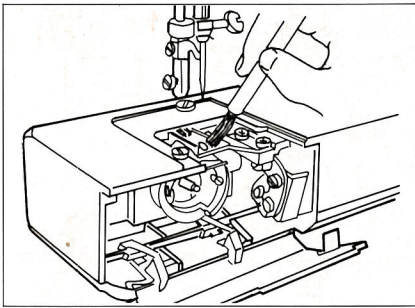
■棒定規の使い方



棒定規を押えホルダーのみぞ穴に差し込みます。ぬい目との間隔を調節します。

■ミシンの手入れ

●掃除



糸くずやほこりが たまりますと 故障の原因となります
常にきれいにしておきましょう。

送り歯とかまの周辺はブラシを使います。

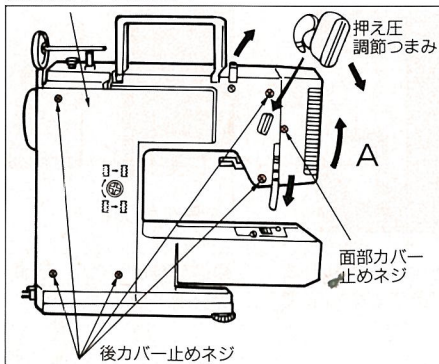
送り歯まわりを掃除するときは 針や押え、針板を
はずします。

たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれいに
なります。

●注油

各カバーのはずし方

面部カバーと後カバー

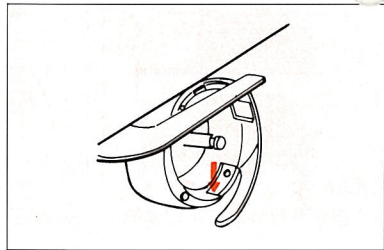


面部カバー：
面部カバー止めネジをはずしA矢印の方向に回転させてはずします。

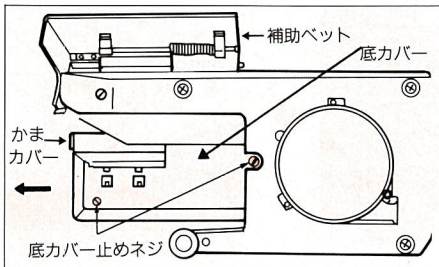
後カバー：
後カバー止めネジ(5本)をはずし
押え圧調節つまみを抜きとります
次に押え上げレバーをさげて、取
手を立てて後カバーをはずします。

●矢印のところへ1~2滴 注油してくだ
さい。

かまカバーを開いたところ

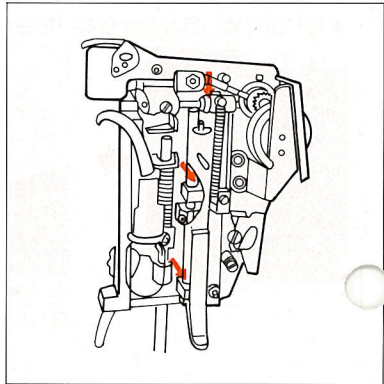


底カバー

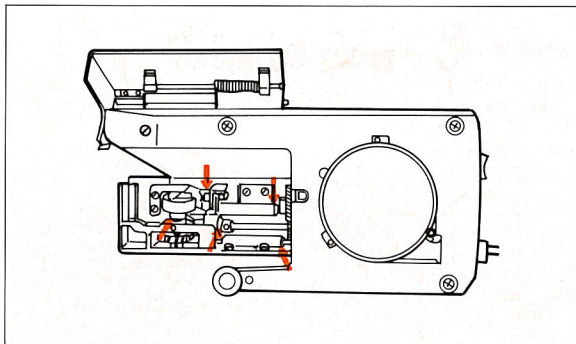


補助ベットとかまカバーを開き、
底カバー止めネジ(2本)をはずし
ます。
そして矢印の方向へ移動させて、
はずします。

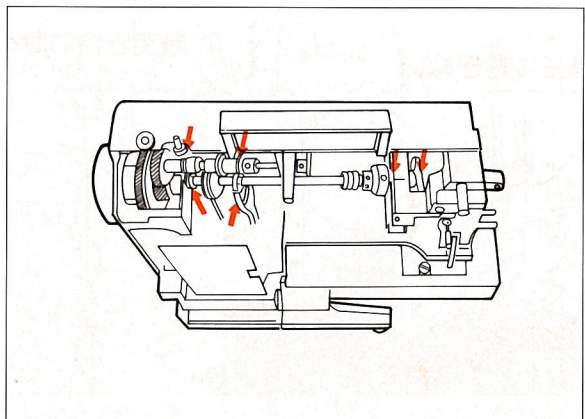
面部カバーをはずしたところ



底カバーをはずしたところ



後カバーをはずしたところ

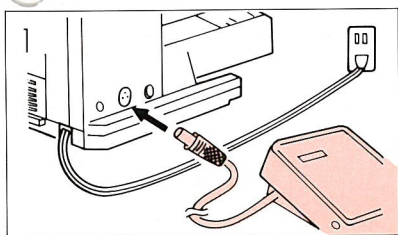


■サービスをお申しつける前に

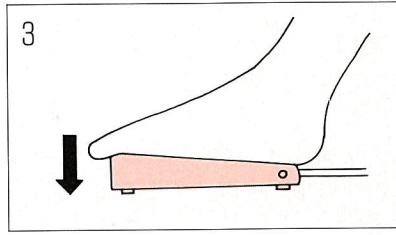
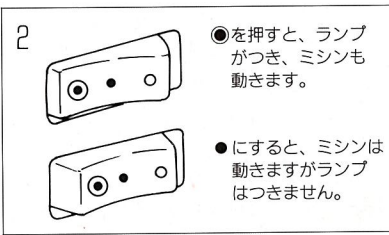
下記のような場合は故障ではありません。サービスをお申しつける前にもう一度お確かめください。

現象	原因(理由)	処置方法	ページ
布が送らない	<ul style="list-style-type: none"> ●ドロップフィードが(罫)になっているとき ●ミシンが空転しているとき ●送り(ぬい目の長さ)が「0」になっているとき ●押えの圧力が弱いとき 	●通常ぬいの(MM)にします	4
		●糸巻軸を左側へもどします	5
		●送りを「1~4」に合わせます	8
		●押えの圧力を強くします	8
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> ●針のとりつけ方が間違っているとき ●針が曲っているとき ●押えと選んだ模様ที่合わないとき ●針・糸・布地の関係が悪いとき 	●正しくとりつけます	7
		●新しい針にとりかえます	7
		●模様にあった押えや針板を使います	7
		●布地にあった針・糸を使います	8
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ●糸のかけ方が間違っているとき ●糸が必要以外の所へからんでいるとき ●上糸の調子が強すぎる時 ●針が曲っているとき 	●正しくかけ直します	6
		●糸立棒、糸案内などからまわっていないか調べます	—
		●上糸調子を正しく直します	8
		●新しい針にとりかえます	7
下糸が切れる ぬい目かとぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●下糸の調子が強すぎる時 ●針のつけ方が間違っているとき ●針が曲っているとき ●糸のかけ方が間違っているとき 	●下糸調子を正しく直します	8
		●正しくとりつけます	7
		●新しい針にとりかえます	7
		●正しくかけ直します	6
回転が重く、音が高い	<ul style="list-style-type: none"> ●油がきれているとき ●釜に糸くすがたまっているとき 	●動く部分に注油します	13
		●釜を掃除します	13
ぬいじわが出る	<ul style="list-style-type: none"> ●糸調子が強すぎる時 ●布地と針と糸が合っていないとき ●押えの圧力が強すぎる時 	●上、下糸とも糸調子を合わせます	8
		●正しく合わせます	8
		●圧力を弱くします	8
ぬっているとき、急に 回転しなくなった	<ul style="list-style-type: none"> ●ゆっくりぬいを長時間したとき ※モーターの異常発熱を防ぐため、自動的に電源が切れるようになっています 	●電源スイッチを切り、約20分間すると安全装置が復帰して正常にご使用できます	—
スタート・ストップ スイッチを押しても ミシンが回らない	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻軸が糸巻状態になっている ●針をかまの中に落したままになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻軸を左側へもどします ●針をとりのぞきます 	5 —
糸通しができない	<ul style="list-style-type: none"> ●針が上にあがっていないとき ●針をとりつけるとき奥まで突き当たっていないとき ●糸通しレバーをさげたまま(糸通し中)誤ってミシンを回してしまったとき 	●はずみ車を回して、針を最上点にあげます	6
		●針を正しくとりつけます	7
		●はずみ車を手でわずかに向う側(ぬうときと反対)に回します	—

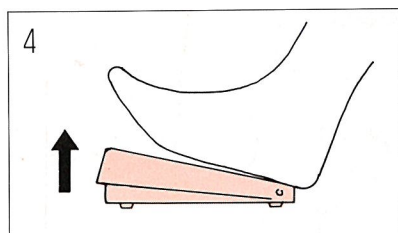
○コントローラーを使ったときのミシンの動かし方(別売品)



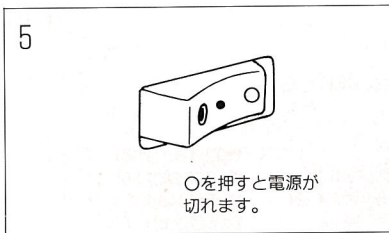
コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差し込みます。



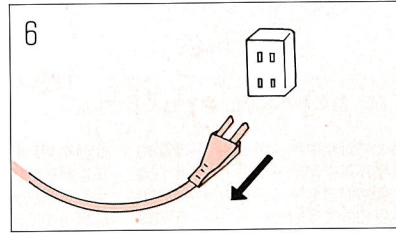
コントローラーを踏みますと、ミシンがスタートし、速度の調節ができます。



足をはなしますと ミシンは止まります。



※ミシンを使わないときは 必ず電源を切ってください。



室内コンセントからプラグをぬいてコードリールに収納します。

JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、
下記、営業所へお問い合わせください。

東北特販営業所……………	〒980	仙台市錦町1-1-2	☎022(261)7081
東京特販営業所……………	〒160	東京都新宿区大久保2-5-22	☎ 03(205)1185
大阪特販営業所……………	〒530	大阪市北区曽根崎新地2-6-21	☎ 06(348)1351
広島特販営業所……………	〒732	広島市中区富士見町4-22	☎082(246)7711
九州特販営業所……………	〒812	福岡市博多区博多駅東1-9-5	☎092(474)4947

JUKI 株式会社

〒182 東京都調布市国領町8-2-1

☎ 03-480-5655

